

# 水輪

後援会広報誌

第39号

池の中に、小石をポンと投げたら波紋が広がる。それがどこまでも切れ目なくつながってほしいという願いがこめられている。



『表  
現』

後援会会長

鈴木忠寿

札幌大谷中学校高等学校後援会員の皆様には益々の御清祥のことと心よりお慶びを申し上げます。今年度は平成最後の年と言う事も有り、役員の方々始め会員の皆様方多数の方々の御協力、御先導を賜りました事深く感謝申し上げる次第でございます。

又教職員の先生達の勉強、努力の積み重ねが生徒たちの心に響いている事と思います。勉強にスポーツ、芸術に社会活動に、この大谷と言う学び舎の中に於てぐんぐん成長して行く様に感嘆するばかりでございます。

平成二十年度中学校の男女共学化、平成二十一年度高校の共学化が実施されて十年、当然幾多の困難苦難、困惑等乗り越えながらの十年だったでしょう。然し、ぶれる事なく学校の心の教育が生徒達を引率していていると感ずる所でございます。

私達後援会会員の人も卒業生、入学生の繰り返しに供いその父母の方達の顔ぶれも少しずつ変わって参ります。

それだけに後援会活動の考え方は方々の伝承を常に心掛け学園祭、研修旅行等交流の場を通じて意思の疎通を計りながら喜び事も心痛事も共に語り、智慧を寄せ合い解決に向けて努力研鑽し最後に笑おうと考えて居ります。

今年度は生徒数の多々なる活躍を喜び、水輪への掲載記事も多岐に渡

ると話していた折り、野球部の秋季全道大会優勝の喜びに加え十一月十三日明治神宮大会優勝と言うビッグニュースが入ってきました。道内勢の優勝は13年ぶりの事で今度の第91回選抜高校野球甲子園出場を創部10年目にして達成してしまつた。本当におめでとうございます。これも一重に船尾監督を始めとしコーチ陣の御指導の元、部員生徒の諸君の日頃の練習鍛錬の賜物ですね。

それにこの10年間の先輩諸氏、父兄の皆さん、中・高・大の一貫強化指導の太田総監督始めとした思考の総合力でしょうか、いづれにしても一つの目標をたて、その目標に向かって鍛錬、努力する、口で言う程楽な事でないのは充分わかりますが、それでもあきらめず前進し大谷と言う看板を胸に友を信じこれからも頑張つて頂きたいと存じます。平成最後の年の快挙に対し大きな拍手を送らせて頂きます。

私は前会長の小泉美栄子様の後任としてバトンを受けましたが、中々簡単に行くとは思いません。後援会の皆様の御指導御鞭撻を仰ぎつつ、前会長の御意志を引き継ぎ「子供達の成長のために手を携え、また智慧を集めて活動する。」この想いを大切にして協調し絆を深め学校の発展の為に寄与して参りたいと願って居ます。今後共より一層のご理解と御支援、御協力を賜りたく宜しくお願ひ申し上げます。



## 「生きる原点」

高等学校校長

種 市 政 己

エヴァル・ノア・ハウリというユダヤ系の学者が書いた『サピエンス全史』『ホモ・デウス』が世界で400万部以上売れているという話を聞きました。ハウリ教授は幸福という尺度で歴史をふり返り、今までの人類史を俯瞰した後、今後人類がどのような方向へ向かうのかをその著書の中で語っています。人間を神にアップグレードし、ホモサピエンスをホモデウス（神の人）になることを目指していると指摘しています。

人類がこれから直面するのは、生物学・人体拡張・人工知能の面での技術革新つまりテクノロジーの進歩であるとパウリ教授は述べています。生物学の分野ではもうすでに、遺伝情報を書き換えによる双子の誕生が中国から伝えられていますし、アメリカでは親がいない人工生命体（ミニマム・セル）が分裂し自己繁殖する人工生命体が誕生しています。人体拡張では、脳と機械の癒合を研究している企業がすでに存在し、将来的に脳の中で考えたことの実在化が可能となり、戦争も自分の考えたとおり無人の機械が戦闘をこす時代が来る可能性があります。人

工知能（AI）による社会の変化も加速します。AIが人の仕事の質を向上させると同時に人の体、精神を根本的に変えることが考えられます。AIが人間を飲み込み、人間そのものの価値が失われる時代が来るかもしれません。すでに中国では人の価値の数値化がインターネット上で行われ、その数値によって交際相手を選ぶことが行われつつあります。

そのような時代を迎える私たちは、どうしたらいいのか。私たち人間のあり方が根本的に問われています。パウリ教授は「イマジネーション（想像力）を鍛えること。リベラルアーツ、自己を突き詰めて考え、人間力を鍛えること」と指摘しています。人としてのあり方を考えるとき、仏教思想がとらえる世界観そのものの重要性が再認識される必要があると思います。問われ続けるものとしての自分を生き、自ら深く考えること。視野を広げ、広く深く考え、他者の為に行動すること。その原点を見つめ直す必要があります。



## 「大谷の飛躍が始まる」

中学校校長

阿 部 不二雄

二〇一九年、すぐそこに来ている大学入試改革を皮切りに教育業界は大変革の時を迎える。文部省がこれから10年の教育ビジョンを指し示した新指導要領には、「未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む」教育を、そして「社会に開かれた教育課程」を強く求めている。未来の日本からの「かくあるべし」という強い要請だろう。

当然さまざまな教育機関がそのテーマを正面から受けとめどのような教育として実現していくか、鎬を削っている。私学にとっては千載一遇のチャンスが訪れているというべきだろう。とりわけ札幌大谷こそ教育課程をどう編成するか、又多様な視点から子供たちをどう育成するのか、教育の仕組みと建学の精神の懐の深さでは他校の追隨を許さないものがある。更に北海道の地に於てさまざまな進学校の実績は低迷している。地元北大への道内出身者の割合は4割を割り、今期は3人に1人の割合となった。旧来の進学校といわれる学校の実績が低下しているためである。

かくして私学の役割は私達が考える以上に大きいといえる。厳しい国際環境の中で国を背負いながら世界とどう立ち向かうのか、日本をどう舵取りしていくのか、正に「国家百年の計」たる教育の「人づくり」にこそかかっているからだ。大谷学園はその巨大なテーマに北海道の地から、二〇一九年をスタートとして挑みつづける。





## 「見守っていただける 素晴らしさ」

PTA会長 檜垣 尚子

後援会の皆様におかれましては、細やかに生徒たちを見守り支えてくださっておりますこと、心より感謝申し上げます。

今年度も文武両道に大変活躍した生徒たちは更なる飛躍へ向けて踏み出そうとしております。保護者にとりまして後援会の皆様の生徒に寄り添う姿は、学ぶところも多く、学園祭のお手伝いや研修旅行などは大変有意義な時間として支えとなっております。

昨年の胆振東部地震では、大変な思いをされた方も多かったのではと、お見舞い申し上げます。そんな中、大都市の中での地域のコミュニティが希薄になってしまったのではと問題になりました。時代の流れは日々、変化しています。便利なことも増え、コミュニケーションの取り方も変化してきています。最近は核家族が増え、家庭の中で親子のコミュニケーションもなかなか取れず、地域の皆で子育てを…という話もよく聞きます。札幌大谷ではいつも後援会の皆様が生徒たちを温かく見守ってくださり、まるで家族のような役割をも担っていただいているので

はと感じます。後援会の結びつきは本当に深く、皆様が生徒たちのことを想う気持ちが、いつも伝わって参ります。嬉しく素晴らしいことです。

学校を訪ねるといつも生徒たちは元気な挨拶を返してくれます。来年度、生徒たちはどのような活躍をするのでしょうか。

いよいよ「平成」も終わろうとしています。これからまた、時代の流れも社会も大きく変化していくのでしょうか。子供達がこの先、どんな札幌大谷を作っていくのか楽しみにするとともに、今後後援会、学校、PTAと連携を取り、一体となって生徒たちと向き合えるようにと願います。後援会の皆様には、引き続きご指導とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



### 「抜粋」 会則第三条

本会は札幌大谷中学校・札幌大谷高等学校の建学の精神に立脚した教育方針に共鳴し、教育事業振興に寄与することを目的とする。

Q1、後援会は、いつどの様な目的で発足したのでしょうか？

A1、人情・心により発足。(昭和五十七年、当時生徒の家庭に火災・交通事故で親を亡くす不幸が続き何とかしてあげたいという気持ちにより、二十数名の方々の厚意により発足)

Q2、後援会の運営、管理は？

A2、総会の席上、選考委員会承認された会長・役員が、第七条の規約に基づき運営。管理は、全て会

長の責務による。(第七条参照)

Q3、後援会の会費の収入、使い道はどうなっているのか？

A3、収入源は入学年度二万円。卒業時会員入会希望者より三千元。(三年間有効)これにより運営(三年ごとに更新)。支出は、規程の二条・三条(注参照)により行使される。体育・文化活動、奨学金、生徒の直接活動に多くを使い、残りは後援会運営活動費として使われている。

### 「抜粋」 会則第七条

本会の会計及び資産は会長がこれを管理する。但しその運用については学校長と協議・調整する。

Q4、現在の会員数は？

A4、総数一、二六一名。

(現生徒保護者 一、〇四〇名)  
(卒業後保護者等 一二二名)

Q5、活動内容は？

A5、会独自のものとして、研修旅行「水輪」発行等。又、学園祭等生徒の活動を後援。

Q6、学園祭活動の収入は？

A6、会員で使い道を検討するが、例年は生徒会へ渡し、生徒の活動に生かしてもらっている。

Q7、同窓会との違いは？

A7、同窓会は卒業生で作られている会で、後援会は卒業後の保護者と現PTAの保護者で成立。

今年度卒業される保護者の皆様、卒業されても、在校生がより充実した学園生活が送れるようご協力下さる事を、願っています。一人でも多くの方の御入会をお待ちしております。



# 後援会が応援しています！

## 「抜粋」 後援会 奨学金支給規程

### 第二条 支給対象

- 第1項 学資の援助が必要な生徒に支給する。  
第2項 教育活動の顕著と認める生徒・団体に支給する。



団体 高校野球部・吹奏楽局  
個人 9名（美術部4名、音楽科5名）

以上、今年度の活動にめざましい功績のあった皆さんに第二条第二項により支給しました。

## 「大谷サイエンス ウィークエンド」 を終えて

理科 平田 真規

「本物にふれることの大切さ」  
インターネットが発達した現在、何でも調べればすぐに答えがわかる時代となりました。その結果、想像力が乏しくなり、夢を思い描く子供達が減ってきたように感じます。  
「将来、科学の世界で活躍する子供達を育みたい」。この願いを後援会の方が受け止めてくださり。本講演

会を実施することができました。  
今回の講演会は、主に小・中学生を対象に、世界で活躍する四名の大学教授から、環境問題について直接学ぶ機会でした。先生方のジョークを交えたわかりやすい説明を聞いて、参加者の皆さんは目をキラキラさせていました。目先の結果にとらわれがちな現代ですが、将来を見据えた長期的な取り組みができる後援会に感謝申し上げます。

見たことのない風景や不思議な生き物がすんでいる  
地球最後の秘境「南極大陸」と「アフリカ大陸」を写真で紹介しながら、  
いまの地球が抱える問題について解説！

テーマ

## 南極とアフリカで地球環境問題を考える

東 正剛先生(北海道大学 名誉教授)

大きな鼻に太鼓腹。高い木から川に飛び込む姿はまさにデング！  
ボルネオのジャングルでどのように暮らしているのかわからないことだらけの  
デングザルの秘密を、冒険いっぱいの調査風景と一緒に紹介！

テーマ

## デングザル ～破壊される熱帯雨林の現状～

松田 一希先生(中部大学 准教授)

DNAは、ニホンザリガニが歩んできた歴史がいっぱい詰まった「玉手箱」。  
それを開くとこれまで謎だったニホンザリガニの歴史が解き明かされる。  
太古の秘密にふれて、みんなの「好奇心の玉手箱」を開いてみよう!!

テーマ

## ニホンザリガニ ～DNAに刻まれた太古の歴史～

小泉 逸郎先生(北海道大学 准教授)

「ヒアリに刺されると死ぬの?」「原発は生物に影響しないの?」わからないから怖くなる。  
わからないことは、調査した人に聞くのが一番。70回以上もヒアリに刺され、  
福島で調査をした経験から、みなさんの「わからないこと」にお答えします。

テーマ

## ヒアリとFukushima ～ヒトとアリの深い関係～

村上 貴弘先生(九州大学 准教授)



# 高校野球部

## 「高校野球」というブランド

五年六組 森 優太

私は高校野球部のマネジャーとして「第49回明治神宮野球大会」のため東京へ行ってきました。私達の代は秋季全道大会を優勝することができました。たくさんの方々に応援され、支えられたからこそ私達のベストが出せました。神宮大会でも一緒に東京へ行きサポートしてくれた補助メンバー、札幌に残ってチームの勝利を信じてくれていたチームメイト達、全員の力で優勝を掴むことができました。

大会中は連戦が続く中、夜はケアを

欠かさず総力戦という感じがしました。北海道大会から通じて「大谷野球」のカラーである「元氣」も全面的に出していくことができた、その「元氣」が良いということネットに取り上げられているというの聞き、しっかり自分たちの「いつも」が出せたのだと思います。全道大会のときからのことですが、「高校野球」というのはスポーツ新聞などでも一面で取り上げられるほど注目を浴びるものでもあり、優勝してからは今までに経験したことのないメディアの数であったり対応があつて「高校野球」というブランド力にもとても驚いています。その面に関してはとても社会勉強にもなっています。これからも多くの人から応援したいと思われるチームを目指していきます。



## 札幌大谷が初V センバツ確定

秋の高校野球

第71回秋季全道高校野球大会は8日、札幌山手球場で札幌支部の2校による決勝を行い、札幌大谷が札幌第一を9-6で破って初優勝した。札幌大谷は来春の選抜大会(甲子園)の出場をほぼ確実にした。甲子園出場が

(金田淳撮影)

初優勝を決め、マウンドに駆け寄って喜ぶ札幌大谷ナイン

決まれば、春夏通じて初め大会は8日、札幌山手球場で札幌支部の2校による決勝を行い、札幌大谷が札幌第一を9-6で破って初優勝した。札幌大谷は来春の選抜大会(甲子園)の出場をほぼ確実にした。甲子園出場が



## 中学野球部

三年一組 將田 明基

今年は二回全国大会に出ることが出来ました。全国大会では、全道大会とは全く違う雰囲気での試合でした。いつも通りに戦うことが出来ず、負けてしまいました。しかし、全国の舞台で試合をすることで得たものはたくさんありました。

この全国大会までこれたのは、先生方や、応援してくれた保護者のみなさんのおかげだと思います。そして、共にプレーをしてくれたチームメイト全員のおかげです。このチームでたくさんの人に支えられて野球が出来てとても良かったです。

高校にあがっても、全国制覇という目標に向かって、今まで支えてくれた方々に恩返しを出来るように頑張りたいです。



## 中学サッカー部

三年二組 森 己鷹郎

僕は札幌大谷中学校サッカー部に入学してから「全国優勝」というのを目標にしてこの3年間をただひたすら練習してきました。その努力が報われて今年の中部連全国大会に出場することができました。また、この全国大会に出場したことによってとくに二つのことをよく学ぶことができました。

一つ目は、全国大会出場し、試合をすることで今までにない経験ができたとともに全国の選手たちのレベルをしっかりと肌身で感じられたことです。

二つ目は、仲間の大切さです。チームの中の一人在り欠けたら全国へは行けなかったと思います。

このように全国では今までにない経験ができ、とても人として成長できたと思っています。



## 中学女子バレーボール部

三年一組 山田 帆夏

私は全国大会に出場して、どの試合も一年間練習してきたことを全て出すことができ、ベスト8という結果を残すことができたと思います。

全国大会は、簡単に勝てる試合は一つもなく、自分達が試合をしていくにつれ、成長することができたと思います。しかし、三年生にとって最後の大会だったので必ず日本一になるという思いで臨んだのですが、そこに辿り着くことができず、とても悔しかったです。

なので、高校では大舞台で活躍できるように、どんな時も笑顔を絶やさず練習に取り組みます。そして、私が全国大会に連れて行けるような人になり仲間と一緒に日本一になります。



## 中学卓球部

全国大会に出場して 三年一組 買手 日菜

私にとって最後の全国中学校大会は、とても思い出深いものになりました。

団体戦では、予選リーグ1勝1敗で第2ステージに進めませんでした。全国トップレベルの選手が集まる有名校に全員が立ち向かってプレーすることができました。個人戦では、最後の全中大会を北海道一位で出場している緊張があり、試合中は何度も苦しい場面がありました。そんなときは支えてくださるすべての方の顔を思い浮かべプレーしました。多くの支えのおかげ初めての全国ベスト8という結果を残すことができ、自信になりました。この経験を生かし、高校では個人・団体ともに一番をとれるように頑張ります。



## 中・高ロボット部

三年二組 恩田 知海

僕は、9月に札幌で行われたWROというレゴロボットの大会に出場しました。今年のルールは、3種類の色をカラーセンサーで読み取り、ブロックを決められた場所に運ぶというものでした。僕は主に、ロボットの設計を担当しました。大会では、バラバラの状態からロボットを組み立てるので、つくりを簡単にするように心がけました。組み立てる練習をたくさんしたため、本番では10分で組み立てることができました。その結果、満点を取り、優勝することができました。残念ながら、地震の影響で全国大会の出場を辞退することになりましたが、この経験を生かし、2月の大会に向けて、がんばっていききたいと思います。



## 高校サッカー部

### 全国大会に出場して

五年五組 横田 晃明

僕たちサッカー部は8月に三重で開催されたインターハイ全国大会に出場しました。インターハイの全国で初勝利できベスト16という結果でした。全国レベルの相手にも勝ちきれるということもわかったし、反対に高いレベルだからこそ一瞬の気の緩みを突かれ、一気に逆転されるという全国の厳しさを肌で感じとることができた大会でした。また全国で勝っていくにはチームの一体感が必要不可欠という大切なことにも気づくことができました、とてもいい経験をしました大会となりました。



## 高校バレーボール部

### 全国大会に出場して

六年二組 鹿内 沙織

私は、中学校二年生の時に初めて全国大会を経験しました。

今回の結果は、予選一位で通過し決勝トーナメント一回戦敗退となりましたが、この負けから多くのことを学ぶことが出来ました。

これは、「仲間の大切さ」です。どんな時でも支えてくれたり、励ましてくれる仲間がいて、思いやりをもってプレーすることができました。

また、決して一人ではなくたくさんの方々や支えがあるということです。

私は感謝の気持ちを言葉で伝えるのはもちろん、プレーで表現することも意識していました。

これからも応援されるチームになるために、一生懸命練習に取り組みます。



## 高校フェンシング部

### 全国大会に出場して

五年九組 杉澤 杏実

今回、私は初めてインターハイに出場しました。

インターハイの会場は、その規模の大きさから選手たちの熱量まで全てが北海道と違っていて今まで経験したことのないような空気に包まれていました。何をするにも初めてで、戸惑ったり失敗したりすることもたくさんありました。ですが、そのお陰で先生方や部活のメンバーへの気配りの大切さを改めて考えることができたと思います。また、試合では今の自分の实力を知ることができました。

今年のこの経験を生かし、来年はもっと成長した姿でこの大会に臨みたいのです。



## 高校ソフトテニス部

五年六組 五井 瞳

私は初めて全国大会に出場して、たくさんの事を経験し学んでくることができました。その中で、課題も多く見つけられました。

初戦の相手は京都府の福知山成美高校でした。ペアやコーチともチャレンジヤーとして積極的に戦おうと試合に臨みました。しかし、全道大会でも経験したことのないようなレベルのプレッシャーで、自分たちの実力を発揮させてもらえず負けてしまいました。全国レベルとの実力の差を感じました。

この経験を生かして、自分にとって最後の年となる来年こそは全国大会でも活躍できるよう、日々の練習に取り組みでいきたいと思っています。そして、全国大会に出場するにあたって支えて

くださった多くの方々、ありがとうございました。これから応援よろしくお願いします。



## 高校陸上部

六年三組 中村 水優

昨年は惜しくも全国大会出場を逃してしまい悔しい思いをしましたが、今年はその屈辱を晴らし女子200m、4×100mリレー、4×400mリレーの3種目で全国出場を果たしました。このことは、陸上部の新たな第一歩を踏み出す良い機会になりました。

結果は、3種目とも予選敗退になってしまい満足の結果ではなく実力の差を感じました。しかし、全国大会という舞台で走り、ベストを更新する種目があつたなど一人一人が全力を尽くすことができました。また、改善点が見つかり私達

全員が良

い刺激を受けることができたので、次につながるためにもっと高みを目指し努力したいと思える良い大会になりました。



## 高校水泳部

六年一組 近江 颯

私は三年間全国大会に出場しました。

全国大会は、とてもレベルが高く、毎年自分がかつと強くなりたいといけな

いと見直す大会でした。私が二年生の時、先輩が二位に入賞したのを見て、自分もそこに立ちたいと思った。一年間必死に練習をしました。しかし、自分が思うような結果が出ず、とても悔しかったです。ですが、泳いでいる時、チームの皆にたくさん応援をもらい、とてもいい気持ちで泳ぐことができた。力に変えることができたのでよかったです。私は、この悔しさを心に刻み大学でリベンジをしたいと思っています。



## 全国大会に出場して

四年一組 濱田 唯奈

私たち卓球部は、6年生4人、5年生1人、4年生6人、中学生6人の計17名で活動しています。

予選では2位通過で、その悔しさをバネにして全国大会ではメダルを取ろうという気持ちで試合に挑みました。団体戦は2回戦敗退という結果でした。6年生最後のインターハイを悔しい思いが残る結果に終わらせてしまいました。が、シングルスでは高山結女子さんがベスト4に入り、練習の指導に来て下さっている先生やコーチにメダルをかけて恩返ししている姿を見て、すごく刺激をもらいました。

卓球部は、卒業したOGの方々や父母会、一般の方々に支えられています。今後も、大谷高校生としての自覚を持ち、努力していきま



## 高校吹奏楽部

六年六組 大島きらり

私たち札幌大谷中学校・高等学校吹奏楽部は、小編成部門の全国大会である「東日本学校吹奏楽大会」に創部以来初となる出場を果たしました。これまで地区大会で銀賞となるのが常だったのですが、地区大会金賞で全道大会へ、そして全道大会でも夢のような初の金賞、更にどちらも第一位通過で全国大会への初出場を決めたのです。

こうした結果を残すことができたのも、後援会や先生方をはじめ、家族を含めた沢山の方々の支えがあったからです。本当にありがとうございました。

この一年で急成長を遂げた吹奏楽部ですが、これからも感謝を忘れず、日々の努力を怠らず続けていきたいと思っています。どうか引き続き吹奏楽部をよろしく願います。



## 高校競技カルタ部

五年九組 藤原菜々花

二〇一八年六月三十日。私達、競技かるた部は、滋賀県で行われる「全国高等学校小倉百人一首競技かるた選手権・団体戦の部」への出場権を手に入れました。このことは創部からの悲願であり、現役の部員はもちろん、卒業された先輩方、顧問の先生と共に喜びを分かち合ったことが、今でも記憶に残っています。

当然のことながら、この目標を達成することは決して簡単ではありませんでした。日々積み重ねてきた練習、時には経験豊富な選手の方々からの厳しい指導、そして練習、指導後の自己反省など、一人一人の地道な努力が、つてこそ、実現することができたのです。今後、全力で向き合っていきます。



## 高校美術科

五年八組 高島 綾乃

私は高文連で全国推薦をいただくことができました。全国推薦は高校生活で一つの大きな目標だったので、とても嬉しく思っています。

四年生の時、先輩達や全道の人の絵を見て衝撃を受けて、憧れを持ちました。今回の絵は、構図には特にこだわらず、たくさん悩んで描きました。背景は納得のいくまで撮り直して、モデルには何パターンもポーズをとってもらいました。行き詰まることもありましたが、先生からのアドバイスを何回ももらったり、周りに刺激を受け、描き切ることができました。全国推薦に選ばれたときは、すごく嬉しかったです。クラスメイトや先輩、先生から「おめでとう」と言ってくれました。この日のことは、すごく印象深かったです。今回の結果は先生方やクラスメイトがいたからだと思っています。本当にありがとうございました。そして、自分の作品と向き合う大切さが分かりました。もっと成長していきたいです。



## 主な全道・

## 全国大会出場

PTNAピアノコンペティション  
日本クラシック音楽コンクール  
全日本学生コンクール

北海道毎日学生コンクール

6年生 阿部 未都(ピアノ)

伊藤 愛佳(ピアノ)

佐々木真子(バイオリン)

清水 咲良(声楽)

徳田 歩柚(声楽)

米田 千紘(フルート)

佐藤 舞弥(ピアノ)

山越 楓(ピアノ)

5年生



# 学 校 祭

## 「学園祭のお手伝いについて」

一年三組 舛森 宏美

今回、学園祭のお手伝いに初めて参加させていただきました。

一年生のため、学校行事の全てが初めての経験で、学園祭に対しても当日集合時間に行っても、知り合いも居らず、何をしたら良いのか緊張と動揺でいっぱいでしたが、後援会の皆様はじめ先輩のお母さん達も気さくに声を掛けてくださり、結果、楽しんで終

えることができました。

暑い一日でしたが、かき氷担当だったことも幸いして、午前だけのお手伝いの時間もあっという間で、午後も続けてもいいかな...と思うほどでした。優しく楽しく声掛けしてくださった後援会の皆様、ありがとうございました。



## 「学園祭のお手伝いをして」

一年一組 松井 昭

この度、初めての後援会評議員、そして学園祭のお手伝いをさせて頂くことになりました。

長女が卒業して6年。久しぶりの学園祭をとて楽しんでいました。

当日はとてもお天気が良く、暑い一日となりました。私の担当はやりとりでした。衛生面でも気をつけながら大量の肉に味を付けるのですが、皆で協力し、楽しく作業をする事ができまし



た。テントの中はとても暑く、煙もすごく大変でした。冷たいお茶などを用意して頂き、水分補給など声をかけてもらい、本当にありがとうございました。生徒達の楽しそうな姿が近くで見れて、お手伝いをして本当に良かったです。各クラスの模擬店、教室発表、体育館での発表も見ることができ、学園祭も満喫する事ができました。

今まで何度も学園祭を見に来ていましたが、改めて後援会の皆様の支えがあったこそ、楽しい学園祭があるのだと感じました。これからもよろしくお願い致します。



# 研修旅行

六年一組 細谷 恵

後援会研修旅行に参加して  
六年間お世話になっていましたが、初めて研修旅行に参加させていただきました。初めて訪れる場所に感心することも多かったです。ビール工場、白老牛、おいしいソフトクリームと研修の中で舌鼓を何度も打ちました。

歴史がある大谷の後援会の役員の方々が企画、運営して下さいましたことに感謝の気持ちでいっぱいです。後援会員のみなさん、ぜひ研修旅行に参加してみたいかがでしょうか、日頃の疲れがとれるかもしれません。ありがとうございました。

## 支出の部

| 科 目                     | 前年度予算額     | 本年度予算額     | 差 異        |
|-------------------------|------------|------------|------------|
| 特別奨学費<br>補 助            | 500,000    | 800,000    | 300,000    |
| 教育活動費                   | 6,800,000  | 4,000,000  | △2,800,000 |
| ク ラ ブ<br>活 動 費          | 5,000,000  | 8,000,000  | 3,000,000  |
| 行 事 費                   | 360,000    | 500,000    | 140,000    |
| 通信印刷費                   | 300,000    | 500,000    | 200,000    |
| 活 動 費                   | 700,000    | 700,000    | 0          |
| 後援会周年<br>記念事業費<br>積 立 金 | 100,000    | 300,000    | 200,000    |
| 特 別 会 計<br>への繰出金        | 1,000,000  | 2,000,000  | 1,000,000  |
| 予 備 費                   | 1,000,000  | 2,000,000  | 1,000,000  |
| 雑 費                     | 260,896    | 286,360    | 25,464     |
| 合 計                     | 16,020,896 | 19,086,360 | 3,065,464  |

## 平成30年度後援会総会 (2018.5.19 土)

- ※ 議案書はホームページに掲載しています。
- 議 事 ①平成29年度 事業報告  
②平成29年度 収支決算報告  
③平成30年度 監査報告  
④平成30年度 事業計画 (案)  
⑤平成30年度 収支予算 (案)

## 平成30年度後援会予算書 (案) 収入の部

| 科 目            | 前年度予算額     | 本年度予算額     | 差 異       |
|----------------|------------|------------|-----------|
| 会 費            | 7,106,850  | 7,146,850  | 40,000    |
| そ の 他 の<br>収 入 | 230,000    | 1,000      | △ 229,000 |
| 前 年 度 金<br>繰 越 | 8,684,046  | 11,938,510 | 3,254,464 |
| 合 計            | 16,020,896 | 19,086,360 | 3,065,464 |

